

紹介患者様診療・検査事前予約ご利用のご案内

医療機関用 外来診療・検査事前予約 FAX予約

当院では、待ち時間を短く患者様が円滑に診療・検査を受けられるように、病院及び診療所の先生から『事前予約』をお受けしております。

●ご利用につきましては、以下の手続きへのご協力をお願い致します。

①「紹介患者様事前予約申込FAX用紙」に必要事項を記入し、地域医療連携室までFAXで送信してください。



②直ちに、予約をお取りし、「予約受付票」をFAXで送信します。ただし、受付時間外のFAXについては、翌営業日の朝にご連絡致します。



③患者様に以下をお渡しください。

- 予約受付票
- 診療情報提供書(紹介状)
- フィルム等



④ご来院時、患者様には以下をお持ちいただきます。

- 先生から受取ったもの
 - 予約受付票
 - 診療情報提供書(紹介状)
 - フィルム等
- 別に必要なもの
 - 健康保険証
 - お薬手帳又はお薬のわかるもの
 - 診察券



..... 予約受付先

- 京都市立病院地域医療連携室
TEL (075)311-5311(代) (内線2113)
FAX (075)311-9862(専用)
- 事前予約医療機関専用電話
(075)311-6348

事前予約受付時間(日曜・祝日を除く)

平 日/8:30~20:00(木曜日は17:00まで)
土曜日/8:30~12:00
FAXは、24時間お受けしています。

地域医療連携相談業務

平 日/8:30~17:00(月曜日~金曜日)

患者様用 紹介患者様事前予約センター 電話予約

当院では、先生からの紹介状があれば、患者様からのお電話で、ご自身のスケジュールに合わせた予約をお取りいただくことができます。

※担当医師の指定、検査の予約はできません。

●ご利用につきましては、以下の手続きへのご協力をお願い致します。

①お電話をされる前に、患者様には以下をお手元にご用意いただけます。

- 事前予約申込票(必要事項記入済みのもの)
- 診療情報提供書(紹介状)
- 診察券 ※初診でもご予約可能です。



②患者様から「事前予約センター」へお電話いただけます。

専用電話番号 (075)311-6361



受付時間/月~金(9:00~17:00)

※土・日・祝・年末年始(12/29~1/3)を除く

●ご予約は前日17:00まで受付しております。

▶電話予約時に確認させていただく内容

- 患者様のお名前(漢字・ヨミカナ)
- 生年月日・性別
- ご連絡先(電話番号等)
- 紹介元医療機関名・予約診療科



③ご来院時、患者様には以下をお持ちいただきます。

- 先生から受け取ったもの
 - 事前予約受付票(必要事項記入済みのもの)
 - 診療情報提供書(紹介状)
 - フィルム等
- 別に必要なもの
 - 健康保険証
 - お薬手帳又はお薬のわかるもの
 - 診察券

健康診断や人間ドック、各種検診で「要精密検査」となった場合でも、上記と同様の手続きで事前予約が可能です(初診でも予約可)。ぜひご利用ください。

※ただし、市立病院で人間ドックを受けられた場合は、健診センターでの予約となります。

専用の申込用紙は、京都市立病院のホームページからダウンロードが可能ですので、是非ご利用ください。



地方独立行政法人 京都市立病院機構
京都市立病院
地域医療連携室

〒604-8845 京都市中京区壬生東高田町1-2
TEL 075-311-5311(内線2115) FAX 075-311-9862
事前予約医療機関専用電話(地域医療連携室直通) 075-311-6348
<http://www.kch-org.jp/>

- 地域に根ざしあらゆる感染症に対応できる感染症診療センターをめざして
- 神経内科のご紹介
- 京都府救急医療功労者表彰について
- 「呼吸機能検査」について
- 患者用図書室(情報コーナー)のご紹介
- 紹介患者様診療・検査事前予約ご利用のご案内

京都市立病院機構理念

京都市立病院機構は

- 市民のいのちと健康を守ります
- 患者中心の最適な医療を提供します
- 地域と一体となって健康長寿のまちづくりに貢献します

京都市立病院憲章

- 1 質の高い安全な医療を提供するとともに、地域の医療水準の向上に貢献します。
- 2 患者の権利と尊厳を尊重し、心のもった医療を提供します。
- 3 救急や災害時における地域に必要な医療を提供するとともに、地域住民の健康の維持・増進に貢献します。
- 4 病院運営に参画する事業者等とのパートナーシップを強め、健全な病院経営に努めます。
- 5 職員の育成に努め、職員が自信と誇りを持ち、全力で医療に従事できる職場環境を作ります。

地域に根ざし あらゆる感染症に対応できる 感染症診療センターをめざして

感染症科部長
清水 恒広



はじめに

全国的に、「感染症内科」を標榜する病院は非常に少なく、外来診療のみならず、診療科独自の病床を保有し入院診療を行っている病院はさらに少なくなります。京都市立病院は、明治時代設立の伝染病病院が母体となった関係上古くから「伝染病科」があり、1999年の「感染症法」成立後は「感染症内科」として診療を続け、いわゆる昔の「伝染病」、すなわち熱帯感染症など輸入感染症だけでなく、一般感染症、なか

でも難治性感染症、免疫不全者の感染症、特殊感染症、不明熱など、診療範囲を拡大してまいりました。現在我々は、毎日外来診療を行い、入院も随時受け付けています。また、2009年の新型インフルエンザ流行時には京都市内で診療の中核的役割を果たしたように、将来起こりうる感染症パンデミックに際しては、京都市立病院の専門診療科として、今後も病院の中心となり対応していきます。

我々の方針

発熱があるから、血液検査で白血球数が多いから、CRP値が高いから、「感染症」特に「細菌感染症」があると判断され、抗菌薬（抗生物質）を処方されがちですが、我々はそれをよしとしません。一見「感染症」のように見えても、その疾患が感染症か、非感染症か、必ず区別する努力をします。さらに、その疾患が感染症だとするなら、必ず原因となる病原微生物をつきとめることに精魂かたむけます。問診と身体診察を丁寧に行い、鑑別診断を挙げた上で、血液培養など採取可

能な患者からの各種検体の培養検査、画像検査、血清での抗原抗体検査、病理組織検査などを駆使して確定診断し、治療を行います。



感染症科からのトピックス

①外来枠の増設

2011年度以降、午前3枠、午後1枠で外来診療を行ってまいりましたが、2015年度からは、平日は毎日午前中外来診療ができるようになりました。さらに以前から予約診療のみですが、水、木の午後の診療も続けています。この結果2015年度から2016年度にかけてご紹介いただく患者さんの数が1.5から2倍近くに増加しました。

②HIV/AIDS患者診療数の増加

2006年度に、それまで血液内科で行っていたHIV/AIDS診療を感染症科で引き継ぎました。引き継ぎ当時我々に任された患者数は10人未満でしたが、この10年間で、新たに診療した患者数は100人を越え、現在診療している実患者数は約90人となっています。京都府内のエイズ治療拠点病院として、重症患者であってもすべて当院で診療が完結できるようになりました。

③細菌、真菌などの同定に質量分析器を導入

2014年4月より細菌検査業務が民間委託され、細菌、真菌などの同定検査に最新の質量分析器が導入されました。血液、尿、便などの材料を寒天培地に塗布し、培地上で発育した細菌集落（コロニー）を用いて、簡単にしかも迅速に菌の名前がわかるようになったのです。しかも血液培養では、陽性となった時点で、その血液培養検体を直接器械にかけることで、ほとんどの場合暫定的に菌名がわかります。この結果、早期よりその微生物に合った適切な抗菌薬や抗真菌薬の選択につながっています。



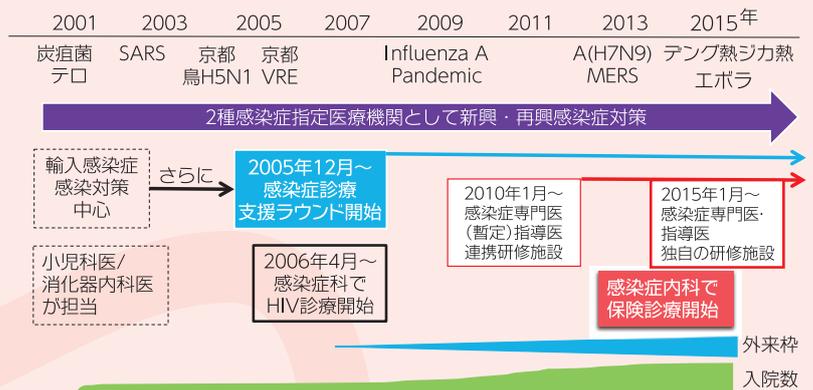
外来診療

平日毎日午前中に外来診療を行っています。水曜日と木曜日午後は予約のみの診療となります。どのような感染症にも対応するよう研鑽をつんでおりますので、なかなかよくならない感染症、不明熱、感染症かどうかわからない症例など、お困り症例は是非ご紹介ください。患者さんの状態に応じて当日入院していただく場合もございます。他院内科ではおそらく経験の少ない、輸入感染症(デング熱、マラリア、腸チフスなど)、寄生虫疾患(日本海裂頭条虫、蟯虫、住血吸虫の駆虫など)、HIV/AIDS・性感染症(特に梅毒)診療も経験豊富です。輸入感染症診療の豊富さは京都一といっても過言ではありません。

また、海外渡航ワクチン接種を中心としたトラベルクリニックにも力を入れており、2003年から診療を開始しております。輸入ワクチンは扱っていませんが、国産ワクチンは、狂犬病ワクチン、A型肝炎ワクチン、B型肝炎ワクチン、

破傷風トキソイド、日本脳炎ワクチンなどを常備し、予約なしで来院されても平日は毎日接種可能です。マラリア予防のための抗マラリア薬処方も行い、希望に応じて抗体検査や英文接種証明書の発行もいたします。ただし、これらは自費診療ですのでご注意ください。

■ 感染症科の変遷



入院診療

2012年以降それまでの入院数が倍増し、年間平均250人前後の入院診療を行っています。腎盂腎炎、インフルエンザ、感染性腸炎、肺炎などをcommon diseasesとして、皮膚軟部組織感染症、骨関節感染症、感染性心内膜炎、髄膜炎、HIV感染症、輸入感染症(マラリア、腸チフス、デング熱など)、重症感染症に伴うSeptic shockなど多岐にわたります。他院でお困りの入院患者さんの転院症例も増加中です。どのような症例でもいつでもお気軽にご相談ください。

当院独自の試みとして、2005年から他科の入院患者さんの中で、感染症科に診療依頼があったコンサルト症例、血液

培養陽性症例、特定抗菌薬使用症例、耐性菌検出症例などを対象に診療支援を行い、毎週2回(火曜日と金曜日の午後から)病棟回診(ラウンド)を行っています。適切に感染症を診断・治療し、抗菌薬を適正に使用することにより、耐性菌の定着を防ぐことが目的です。



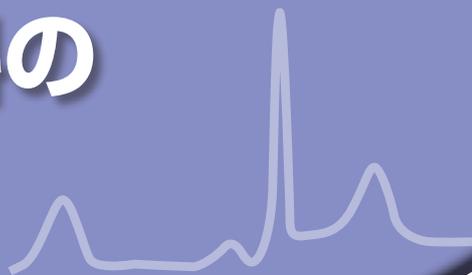
最後に

部長の清水が着任した2001年以降の感染症科の変遷を図示しました。小児科専門医であった清水の着任当初は、消化器内科医とともに院内の感染対策と少数の輸入感染症診療を行うことが感染症科としての仕事でした。当時仕事の9割以上は小児科医として小児科診療を行ってきました。この間、世界や国内では種々の感染症の発生事例があり、京都内での感染拡大を防ぐべく対応に当たりました。しかし、2005年から院内で診療支援ラウンド開始後は、様々な感染症に遭遇し診療経験を積むようになったことで、最終的に感染症専門

医・指導医資格を取得し、2010年以降、当科研修により感染症専門医の育成も可能となりました。現在では人も集まりスタッフも増え、本当の意味の「感染症科」として生まれ変わることができたと思っています。

今後も京都の中で地域に根ざし、病診連携、病病連携を行いながら、感染症診療、感染対策に従事し、あらゆる感染症に対応できる感染症診療センターをめざしていきたく思っております。お困りの症例は是非ご紹介を宜しく願いいたします。

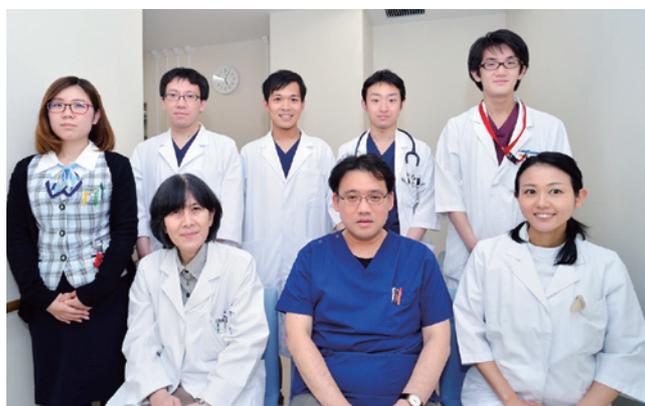
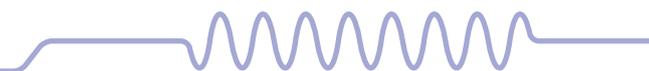
神経内科の ご紹介



神経内科部長
中谷 嘉文

はじめに

神経疾患は、一般的に「わかりにくい」というイメージを持たれることが多いと思います。しかし、頭痛、めまい、しびれる、力が入らない、などの比較的ありふれた症状として現れてくるため、日常診療で遭遇する機会はかなり多いと考えられます。その中で、治療を要する器質的疾患を見極めていくことが、何より重要です。当院の神経内科では、脳卒中、てんかん、神経難病、筋疾患など多彩な疾患の診療を行っており、それぞれについて紹介します。



脳卒中

多職種連携による脳卒中センターで、脳神経外科と神経内科が共同で診療を進めています。rtPA静注療法や血管内治療など脳卒中急性期診療も積極的に行っています。2015年度は17例のrtPA静注療法を施行し、約35%の転

帰良好例を得ました。急性期治療だけでなく、長期的にわたる予防的治療も含めた総合的な脳卒中診療を目指しています。



てんかん

高齢者時代の到来とともに、てんかんは明らかな増加傾向にあります。てんかん診療は脳波判読が重要ですが、当科では週に一度脳波カンファレンスを開催し、併せて治療方針も検討しています。てんかん重積は、集中治療室にご

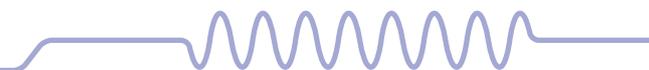
協力を頂いて、呼吸管理を含めた集約的治療を行っています。また、近年多数の新規抗てんかん薬が本邦で使用可能となっており、適切な治療薬の選択につとめています。



認知症疾患

認知症の対策は、高齢化社会の最重要課題といえます。アルツハイマー病、レビー小体型認知症などの変性疾患は

もちろんのこと、正常圧水頭症、代謝性疾患、脳血管障害に伴う認知症、クロイツフェルトヤコブ病などの可能性を



検討し、特にtreatableな病態を正確に診断するように努めています。認知症は治療法に乏しいケースが多いと言わ

ざるをえませんが、少しでも患者様、診療や療養に関わる方々のお役に立てればと考えております。

神経変性疾患

神経変性疾患には、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、小脳変性症など多数の疾患があります。画像診断、電気生理学的検査などに基づいた診断、投薬調整、長期的な療養環境の調整などを行っています。また、胃瘻による栄

養管理や人工呼吸器管理を在宅でされている患者さんを対象とした、レスパイト入院（2015年度は6例）も受け入れております。

免疫・炎症性疾患

髄膜炎、ヘルペス脳炎などの感染症、多発性硬化症、自己免疫性脳炎などについて診断・治療を行っています。ギラン・バレー症候群、CIDPなどの末梢神経障害の患者さ

んも多く、ガンマグロブリン大量静注療法、血漿交換などを施行しています。また、呼吸障害、全身状態の悪化などがあれば呼吸管理・全身管理も併せて行います。

筋疾患・神経筋接合部疾患

筋炎、筋ジストロフィー、先天性筋疾患などの診療を行っています。筋生検が必要な例が多く、当院整形外科医師の協力を得て検体を採取のうえ、京都大学神経内科、国立精神神経センターなどで病理診断をお願いし、治療法を検討

しています。また重症筋無力症の患者様も、内科的治療だけでなく、必要に応じて呼吸器外科医師により胸腔鏡下胸腺摘出術を施行しています。

最後に

我々京都市立病院の神経内科医は、このような疾患の診療に日夜取り組んでいますが、その窓口となるのは、救急外来および地域の先生方との連携で成り立っている外来診療です。神経疾患が疑われる患者さんがおられましたら、どうぞお気軽にご紹介ください。必要に応じて入院していただき、検査、治療の方針について、全員で定期的にカンファレンスを行い、合議のうえ決定しています。退院可能となれば、患者さんにもよりますが、逆紹介させていただくことになると思います。今後も地域の先生方との連携を一層強め、力の及ぶ限り、よりよい医療を提供できるように邁進して参ります。何卒宜しくお願い申し上げます。



患者用図書室(情報コーナー)のご紹介

患者用図書室は、だれもが利用できる「医療健康情報を提供する」コーナーです。

2013年4月の開館以来、多くの来館者が訪れています。年々、自分や家族の病気・健康に関心を向けられる方が増えています。



目的

1. 利用者に「最新の正確な医療情報を伝える」
2. 利用者が「病気・健康に対して理解を深める」

ご案内

1. 図書

- ①**本** 従来の医療関係の本に加え、最近では楽しい本、子供さん向けのまんがなども置いてあります。
- ②**貸出** 入院患者様には1週間に3冊まで貸出ができます。
- ③**閲覧** どなたでもご利用できます。

2. インターネットパソコン

- ・病気や健康に関することを検索できます。
 - ・インターネットからの医療情報のコピーサービスも実施しています。
- ※パソコンが苦手な方にはスタッフがお手伝いしますので、お気軽にお声かけください。

3. パンフレット

- ・豊富に取り揃えた医療用パンフレットの他に、最近では宅配食パンフレットも置き、様々なニーズに対応できるようになっています。

4. 掲示物

- ・院内外の医療に関する情報を中心に、タイムリーに掲示しています。

5. その他

- ・室内ではやすらぎや癒しを目的とした動植物の写真の展示やヒーリング系の音楽を流しています。
- ・円形テーブルとゆったりとしたイスで、心地良く本を読むことができます。
- ・大きな窓からは一年中、四季折々の景色が楽しめます。

利用時間

月曜日～金曜日 10時30分～17時00分
土曜日・日曜日・祝祭日 12時00分～17時00分
(5月3日～5日、12月29日～1月3日は休館)

場所

北館2階(ファミリーマートの隣)



今後、より一層多くの方にご利用いただけるよう、患者様目線でのサービスを考えながらスタッフ一同、努力してまいります。

来られた方も、来られてない方も是非お越しください。心よりお待ちしております。